

— 総括表 —	
◆ 事業計画	
<input type="checkbox"/> 地域の現状と今後の方向性	
1 地域の現状 (1) 高齢化率が30%を超えましたが要介護認定率は低く、元気な高齢者が多い (2) 集合住宅では高齢者の単身世帯率が27%と区平均に比べ、非常に高い (3) 地域活動者の高齢化に伴い、世代交代が進んでいる (4) 介護事業所数が区内で最も多く、医療機関も多い。連携に協力的な医療機関が多い (5) 障がい者支援の施設、学校が多く、転入者も増え、支援者が不足している (6) 外国にゆかりのある世帯が増えたが、コロナ禍において正確な情報を取得することが困難となっている	
2 今後の方向性 (1) 地域や区、関係機関・関係事業者等との連携を強化し、福祉保健課題の解決に向けて地域福祉計画を推進していきます。 (2) 地域包括ケアシステムの推進に向けて取り組んでいきます。(認知症サポーター養成講座、地域ケア会議、介護予防・生活支援サービスの充実) (3) 「共助」の取組を厚くするために取り組んでいきます。(福祉ネットワーク) (4) ボランティア活動の担い手育成に向けて支援を進めます。 (5) 高齢になっても、いつまでも健康で生活が続けられるように支援を進めます。 (6) 子ども子育て中の家庭が、暮らしやすい明るい街づくりに努めます。 (7) 障がい児・者を支えるボランティア育成と、交流を通じた心のバリアフリーに努めます。 (8) 地域防災対策の必要性が高まっています。要援護者の支援するとともに、福祉避難所としての役割を果たしていきます。	
<input type="checkbox"/> 今年度の重点的な取組	
新規	継続
— 具体的な取組内容 —	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や関係機関と連携し、福祉保健課題の解決に向けて第4期地域福祉計画を推進していきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケアシステムの構築に向けて、一人暮らし高齢者の方も安心して生活できるよう地域での見守りや権利擁護に関する取組を進めます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療と介護の連携の推進した取組として、病院とケアマネジャーとともに研修会の企画・開催を進めます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 介護予防・生活支援サービス総合事業「こもれびカフェ」において、要支援者の利用が拡充するよう、ケアマジャへの更なる周知を進めます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 移動販売の利用状況の分析を行い、地域での孤立解消に向けた取組を、企業と連携して進めます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 制度の狭間を担う「福祉ネットワーク(助け合い活動)」では、ボランティア発掘と育成を強化し、街の魅力につながるよう進めます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校や障がい児者施設等も多く、社会に参加しやすい環境づくりを進めます。
◆ 事業報告・事業実績評価	
<input type="checkbox"/> 振り返り	
昨年度から引き続きコロナ禍での1年でしたが夏頃から事業を少しずつ再開していきました。事業はオンラインなどを取り入れながら新しい形で取組を始めました。オンラインについては年齢層によっては難しいこともあり今後の課題となっています。地域の課題も8050問題やごみ屋敷問題が複合的になってきて複数化に発生することで複数の機関との連携が必要になってきています。移動販売時を定点観測したところに個別の課題が発見され個別訪問を実施しました。コロナ禍の影響は貸館団体やボランティア団体等にも大きく影響し、会員や参加者数が減少し、解散になった団体もありました。	
<input type="checkbox"/> 区からのコメント	
単身高齢者が多く相談件数の多いエリアを対象に個別訪問し、直接困り事伺い、ケアプラザの周知を行いました。また、生活支援コーディネーターを中心に地域資源の情報を収集し、包括支援センターとも協力しながら支援の必要な高齢者を移動販売、地域のカフェなどにつなぎ、ボランティアとマッチングさせることが出来ています。コロナ禍で制約のある中、認知症サポーター養成講座のオンラインの開催や区認知症普及啓発講演会のオンライン視聴など、工夫を凝らした新たな形での認知症普及啓発に取り組みました。	
令和3年度もコロナ感染防止のため、諸室の貸出しや相談業務、各種事業の実施など年度を通じて流動的な対応が求められました。そうした中でも、地区別計画の推進を通じた地域づくりに向けて、区役所や区社会福祉協議会とも連携しながら、各種の取組にご尽力頂きました。引き続き、地域の皆様の期待に応えられるよう、適切・健全な施設運営をお願いいたします。	